

2020年

春の読書感想文・課題作文優秀作品

【小学部・読書感想文】

「私の苦手な女の子」を読んで

中山校 K・Kさん（都田西小）

この物語は誰とも仲良くならないリサとリサが秘密にしていた足のやけどのあとを知ってしまったミヒロが主人公。夏休み、苦手を克服するという宿題が出た。リサはありのままの自分を受け入れ、ミヒロは苦手なリサを克服することに決めた。これは二人の女の子の成長と友情の物語であった。

私は自分の嫌なところをかくさずに堂々としていけばいいのだということと、作中であつたようにありのままの自分を受け入れることが大切なのだということとを、作者が私たちに伝えたかったのだと思う。

私は作者の気持ちに賛成だ。なぜなら、自分の嫌なところをかくしていたらいつまでも強くなれないと思うし、ありのままの自分を受け入れることで自分の嫌なところもかくさずに堂々としていられると思うからだ。

私は友達になりたいと思った子に自分から友達になろうと言えない。どうしても無意識に相手から友達になろうと言ってくれるのを待ってしまっている。この時私はまた自分から言えなかったな、無意識に言ってくれるのを待っているな、と思った。だから今は自分から積極的に友達になろうって言ったり、相手に言ってもらおうのを待たないようにしたりすることを心がけている。

この本を読んで私は自分の苦手とする子も仲良くなりたいと思えばなれること、自分のコンプレックスや嫌いなところも受け入れることが大事な事だということや学んだ。今後私は自分から積極的に友達になりたいと思う子に話しかけ友達を作りたいと思う。また、自分のコンプレックスや嫌いなところをありのままの自分として受け入れられるように成長していきたい。

「世界から猫が消えたなら」を読んで

長津田校 M・Cさん（長津田小）

この物語は、余命わずかである主人公の「僕」がこの世界の何かを消す代わりに一日の命を得るという取引をし、自分の命と物のどちらが大切かを考えていく物語だ。作者は、何かを得るためには何か大切なものを失わなければならないということを伝えたかったのではないだろうか。

私は、作者の意見に賛成だ。何も失わずに何かを得るとすると、悩んだり迷ったりする必要がなくなってしまうからだ。

私は、欲しい物があつた時に同じような物でも値段が違う場合、高機能が付いているけれど高い物と、使うのに十分な機能が付いている安い物で迷う。

この時、失う物がなければ当然高い方を選ぶだろう。しかし、お金という失う物があるからこそ、私たちは迷ったりがまんしたりすることができているのではないだろうか。だから、私は何かを失うことを不満に思うのではなく、それが当たり前のことなのだと思う、行動するべきだと思う。

この本を読んで、何かを得るためには何かを失うわけを初めて考えた。これまでは、世界にお金がある意味がよく分からなかったけれども、今回この視点から考えてみて意味がよく分かったような気がする。迷いやがまんのためにお金があるのだと私は思う。また、他にもプレゼントは、相手のことを考えている時間に意味があるということを知った。物よりも相手の気持ちやうれしいのだと改めて学ぶことができた。今後は、この物語の主人公のように自分の命よりも大切と思えるようなものを探していきたいと思った。

【中学部・課題作文】

十日市場校 I・Jくん（十日市場中）

資料1によると、日本の旅館やホテルの市場は二〇一一年が一番低い。また倒産件数も、資料1によると二〇一一年が一番多い。この年は東日本大震災のあった年だ。そして現在、衝撃的な出来事が起きている。二〇二〇年、まさに二〇一一年のような状況が起こる、また起きているのではないかと感じる。

その中で千葉のホテルがとった決断は間違いなく武漢市から帰国した日本人、そして日本を助けたと思う。また、そこでそのホテルが協力を申し出なければ、今のようにホテルが軽症者を受け入れるといった動きはすぐにできなかったのではないかと思う。

数か月前、トイレットペーパー、ティッシュ類が店頭から消えた。業界団体は「供給は十分足りている」と言っているのに。なぜ店頭から消えるという現象が起こるのか。それは「人々による買い占め」が原因だ。必要以上に買い占めをする人々によって、配送が間に合わず、品薄になってしまった。本当に必要としている人が買えないのだ。そういう時こそ助け合い、譲り合いが必要だ。故事成語に「終身路を譲るも百歩を枉げず」というものがある。譲るために曲げた距離はわずかなことで、逆に物事が円滑に進むという意味だ。東日本大震災の後、スーパーコンピューターに「最後に生き残る人間はどういう人間か」と計算させたところ、はじき出した答えは「譲る心を持った人間」だったそうだ。現在の状況を目の当たりにした今、とても心に響く。

今、誰もが必死に生きている。自らのリスクを背負ってまで人のために働く人々もいる。今こそ「譲る」という精神が必要だ。しかし見返りのために譲るのは違う。大切なのはあくまで思いやりの精神だ。この危機は日本全国民が思いやりの精神、譲る精神を持って一つにならなければ乗り越えられない。僕たちならそれができると思う。